

ジャニスの企画魂 Vol.10

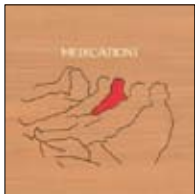
越境し続けるエモ/ポストロックの世界



Fugazi
[Instrument]



All Scars
[Early Ambient]



Medications
[Your Favorite People All In One Place]



Panoply Academy Legionnaires
[No Dead Time]



Don Caballero
[What Burns Never Returns]



Sleeping People
[Sleeping People]

店員A：神田神保町のCDレンタルショップJANISが、この店ならではの企画を紹介するこのコーナーですが、今回のテーマは“エモ/ポストロック”です。

店員B：JANISにはPROGRESSIVE ROCK、音響、マージナル、エレクトロニカなどの棚もあるわけですが、エモ/ポストロックにはそれらのジャンルに入るCDもありますよね。厳密な線引きなど出来ないのは自明なわけですが、エモ/ポストロックというのはジャンルにはとらわれないインディーレーベルが自由な発想で作品をリリースしてきたという背景があると思います。

店員A：その代表的なインディーレーベルとして挙げられるのがイアン・マッケイ率いるDISCHORDだと思えます。彼の所属したFugaziは正に既存の概念にとらわれない独自のスタンスで活動してきたわけですが、そのなかでも異色作なのが彼らの活動を総括した映像作品「Instrument」のサウンドトラックです。

店員B：サウンドトラックでは映像作品で使われていたインストが中心となっていますね。

店員A：どの曲も無駄な装飾を一切そぎ落とした緊張感が漲っていて、ストイックな彼らの美学が明確に出ていると思いますね。

店員B：やはりDISCHORDのアーティストは自由な発想をもっていながら芯の通った美学を感じます。

店員A：これは個人的な見解なんですけど、DISCHORDのバンドってポストパンク的なノリを持っているバンドが多いと思うんです。例えばGang of fourなどのファンクの要素ですね。All Scarsというバンドは生粋のDC系ハードコアバンドなんですけど、彼らの1stアルバムはそのノリが際立っています。

店員B：このギターなんてノイズ・パンクな感じですね。

店員A：1stアルバム以降はよりノイズ色が強くなっていきます。一方、同じくDISCHORDからリリースしているMedicationsもテクニカルなドラムが印象的なんですが、こちらはギターも歪ませて轟音を鳴らします。彼らの肉厚なサウンドはストーンファンもイケるんじゃないですかね。あとDISCHORDではありませんがPanoply Academy LegionnairesというバンドもDC系のサウンドがツボの人にはオススメです。彼らも変拍子を多用しているんですが、ヴォーカルがかん高い痙攣系でパンク、それでいてサウンドはMODEST MOUSEにも似た音の柔らかさもあります。

店員B：ポストロックには複雑な変拍子を多用するバンドも多いですね。

店員A：その代表格と言えるのがDon Caballeroでしょう。彼らは1stアルバムと4thアルバムの人気が高いんですが、個人的には3rdアルバムが一番好きです。よりフリーキーであり実験的！

店員B：Don Caballeroのギタリストだったイアン・ウィリアムズが在籍するBattlesが注目を集めることによって、日本でのインスト系ロックの人気も高くなったように思います。

店員A：Battles系のソリッドな音でJANISでも人気があるのがサンディエゴのSleeping Peopleです。激しい変拍子が繰り広げられるわけですが、研ぎ澄まされたバンドサウンドが一体となってダイナミズムがあ

ります。あとBattles好きの人にはスイスのHoney For Petziもオススメです。変拍子に硬質なギターのカット音が絡みシンプルな音だけど、楽曲は複雑に展開されます。

店員B：彼らはスイスのバンドですが、ヨーロッパにもエモ/ポストロック系のバンドは結構いますよね。

店員A：Audionomというバンドはスウェーデンのバンドで、リズム隊がクラウドロックっぽいんです。シンセがループしていてミニマルな要素もあるけど、ギターが轟音で、ヴォーカルがパンクっていう変わり種です。

店員B：最近ではいろんな音楽的要素を、最初から持っているバンドも多くなりましたね。

店員A：今、カナダのWhere Are Myというレーベルの人气が高いんですが、このレーベルのEpic45の新作はエレクトロニカっぽかったです。同じレーベルのBelow The Seaというバンドの3rdアルバムには、エレクトロニカファンには有名なドイツのウルリッヒ・シュナウスがキーボードで参加しているんですよ。

店員B：ギターはシューゲイザーっぽい感じがしますね。ウルリッヒのソロアルバムもシューゲの要素があったから、そこに共通性を感じます。

店員A：デンマークのDiefenbachというバンドはシューゲイザーフォローワーと言われていたバンドです。でも、轟音に包まれて美しいメロディを鳴らしているというサウンドではなくて、隙間はありつつ轟音ギターも鳴らしたりする。だからポストロック好きな人も聴くんじゃなかったって思ってるんですよ。ドラムのフレーズもカッコ良いです。

店員B：ポストロックってインストのイメージが強いんですけど、ヴォーカルものも結構良いですよ。

店員A：05年に発表されたEuphoneのミニアルバムはビックリしました。ドラムのライアン・ラブシーによる1人ユニットになったんですが、これまでインストだった楽曲にヴォーカルが入りガラリと変わっています。彼の超絶ドラムは健在なんですが、エレクトロのサウンドも絡ませ新たに変化を見せる作品です。

店員B：今回はFugaziから始めたわけですが、基本的にここで紹介したアーティストの音楽には自由な空気が詰まっていますよね。インストが多いんですけど、インストにはいろんな要素を足していける自由さもある。このシーンはハードコアファンとクラブ好きの人たちが一緒にライブに集まるという状況も作りだしているわけだし。

店員A：まさにそうですね。そういう意味でも私が一番オススメしたく、そして世界で一番ライブを観たいバンドがTuring Machineです。彼らはポストロックが流行ってない頃に出てきて、一言でいうと微妙なんです。プログレにも聞こえるし、サイケにも聞こえるし、ポストロックにも聞こえる。でも、その微妙なバランスが素晴らしい。ポストロックってテクニカルなドラムが特徴だったりするんですけど、このバンドは普通にエイト・ビートを叩く。でもサイケな要素もあってトバされる感じもありつつ、バトルスの攻撃性も入っています。是が非でも借りて聴いてください！

ここで紹介したCDが全てJANIS本店で貸りられます！



Honey For Petzi
[Man's Rage For Black Ham]



Audionom
[Retrospektiv]



Below The Sea
[Blame It On The Past]



Diefenbach
[Run Trip Fall]



Euphone
[V]



Turing Machine
[Zwei]



JANIS SPACE 企画持ち込み募集中!!

JANIS1号店の下にオープンしたJANIS SPACE。即興ライブ、アコースティックライブ、映像×DJイベント、お笑い×音楽イベントなどイベントスペースとして活用されています。このJANIS的フリースタイルスペースで「何かやってみたい人」を募集しています。詳細はJANIS WEB SITEをCHECKしてください!!

CD RENTAL SHOP JANIS

千代田区神田小川町3-6-9
神田第2アメックスビル9F
TEL：03-3291-9578
<http://www.janis-cd.com/>

